



2022年度冬号（第16号）



中先生インタビュー



今年度で京都府立大学を退職される中純夫先生にインタビューを行いました。

——教員生活を振り返っていかがでしたか。

はじめ富山大学で勤務していて、登山やスキーをよくしました。上手にはなれませんでした。終わった後のビールがおいしかったですね（笑）。

府立大学に来てからは、朝鮮についての研究を始めなど新しいことに挑戦していきました。また、府立大学の学生はとても真面目で、優秀な人も多かったので巡り会えて幸せだったと思います。

インタビューの様子▶



——中先生が東洋史を研究分野に選んだ理由を教えてください。

中学生の時、国語の先生の魯迅の話聞いて現代中国文学を研究したいと思うようになりました。また、優秀な兄にコンプレックスがあって違う道を歩きたいというのもありましたね。現在の研究分野に興味を持ったきっかけは、浪人していたときに教科書に載っていないような論語の話を読んで、論語に対する見方が変わったからです。そして、大学入学後中国哲学を専攻し、修士論文では朱子学をテーマにしました。

——中先生からみた歴史学の面白さを教えてください。

私は文献史学を研究していますが、文献実証主義を通じてテキストに向き合うと先行研究とは違った視点で課題が見えてきます。そこに到るまでのインプットの作業は単調で忍耐が必要ですが、努力し続ければ自分なりの見解を持つことが出来る。そういうことを論文にするのは楽しいと思っています。

——中先生が研究してこられた東洋史をもとに、学生達へアドバイスをお願いします。

今起こっている出来事を現代史として、自分の眼に焼きつけることです。私が学生だった頃は中国では文化大革命が起こっていました。しかし、実情も少なく当時の中国語の教科書が毛沢東や紅衛兵を賛美する内容だったのを覚えています。やがて文革は中国では負の遺産として受け止められるようになりましたが、近年、中国では独裁体制など文革を想起させるような出来事も起こっています。このとき、当時の現代史として刻み込んでいた文革の記憶が現代の中国で起こっていることを判断する際の尺度となります。つまり、当時の体験を反映して、いま起こっていることを評価出来るようになるのです。



中純夫先生

京都府立大学文学部歴史学科教授。中国近世および朝鮮近世の儒教思想史を研究。府立大学では朝鮮思想を中心に研究してきたが、最近では原点回帰して朱熹思想の研究に取り組んでいる。

また、今回インタビューにあたって、歴史学科2回生の山田健一郎さんにもご協力いただきました。中先生、山田さん、ありがとうございました。（黒住・浅田・岩田・高寄）

地域の「お宝」を小学生に伝える

11月4日に、京田辺市三山木駅周辺において文化遺産学コースの3・4回生の学生が実習の一環として、市立三山木小学校4年生の皆さんに校区内を巡りながら地域の特徴を伝える取り組みを行いました。この体験学習は木津川堤防、寿宝寺、^{さが}佐牙神社の3か所を回りながら、地域の暮らしや産業、歴史などの「お宝」を探すというものでした。



▲土の水はけの良さを実演する学生

木津川堤防では学生が砂と泥を使った実演を交えて木津川の砂が水を通しやすいことを示しました。さらに現在でも河原で行われている覆下栽培^{おおいした}を用いる玉露づくりについても説明しました。

寿宝寺では千手観音という平安時代の「お宝」があり、300年前に木津川の氾濫を避けて現在地に移転してきたことを説明しました。さらに、そばにある山本駅旧跡では、奈良時代に馬の継ぎ場で人がたくさん集まった駅があったことも説明しました。

佐牙神社では「酒」が転訛して「さが」神社となったという名前の由来をクイズを交えて説明した後、佐牙神社本殿の特徴を示しつつ、国指定重要文化財という「お宝」になっていることを伝え



▲古代の「駅」を説明する学生

ました。観察すると、本殿は全く同じ形、大きさの建物が2つ並ぶ同寸同大という特徴をもつ建物であることがわかりました。



▲佐牙神社について説明をする様子

また、3か所のポイントに向かう道中でも三山木という地名の由来を説明するなど、児童の皆さんを飽きさせない工夫が凝らされていました。

最後になりましたが当日の取材に協力していただいた全ての皆様に感謝申し上げます。（石川）

今号は中井（校正）、米山・中井（編集）が担当しました。

デザ研について～About Us～

文化遺産デザイン研修は歴史学科の課外活動です。歴史や文化遺産に関する内容を自分たちで調査し、その成果を適切に表現・発信することを目的とし、インプットからアウトプットまでをデザインします。また、活動を通じてメンバー自身の成長とキャリアデザインの機会にもなっています。

2021年度は学科ニューズレター「れきしんぶん」の発行、Twitterアカウントを運用しての学科の活動の紹介、学科HPを更新するための卒業生インタビュー、北山の歴史の調査などを実施しました。

作成：京都府立大学文学部歴史学科文化遺産デザイン研修
発行：606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

京都府立大学文学部歴史学科



FOLLOW ME...
@designkenshu